

| | | | | | |
|---|--------------|-----------------------|-------------|------------|---------|
| 2012-B | | | | | |
| 拠出金・基金の名称: | | 国連世界食糧計画(WFP)拠出金 | | | |
| 種 別 | | イヤーマーク ノン・イヤーマーク | | | |
| 拠出先の国際機関名: 国連世界食糧計画(WFP) | | | | | |
| 【所管官庁担当局課・室名】: 農林水産省大臣官房国際部国際協力課 | | | | | |
| 【当該任意拠出金の目的・用途等】 フード・フォー・ワーク事業により、アフリカ諸国に稲作の普及を行う事業を実施。 | | | | | |
| 最近3年間の我が国支払額及びODA率 | | | | | |
| 単 位 | 邦 貨 (千 円) | 外貨1 (千ドル) | 外貨2 (千) | レ ー ト | ODA率(%) |
| 平成24年度 | 76,884 | 949 | - | 1米ドル = 81円 | 100 |
| 平成23年度 | 84,903 | 954 | - | 1米ドル = 89円 | 100 |
| 平成22年度 | 168,729 | 1,795 | - | 1米ドル = 94円 | 100 |
| 【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 労働の対価として食料を供与する住民参加型農村開発事業(フード・フォー・ワーク)により、水田開発等を通じた稲作支援、貧困地域農村の自立支援を行う「アフリカにおける稲作等普及事業」を実施。平成24年度までに西アフリカ4ヶ国で1776haの水田開発を行い、7062人がその水田で米生産に関わっており、当初の目標を達成、十分な成果が得られ、我が国として高く評価できる。 また、平成24年度事業として、平成25年1月から内戦からの復興過程にある西アフリカ2ヶ国で新たに「稲作等を通じたアフリカ食料安全保障復興支援事業」に着手したところ。 なお、WFPは、他の国連機関や現地政府などとの連携を進めており、食糧・燃料価格高騰、経済危機、気候変動による大規模自然災害の多発等に有効に対処している。また、1990年代以降、本部から活動現場へ積極的に権限委譲をしており、スクラップ・アンド・ビルド方式で本部の人員を削減し現場の人員を増加している。 さらに、ドナーの拡大や民間からの支援の増加に積極的に取り組むとともに、食糧の現地調達による輸送経費の削減などの効率化を実施している。 | | | | | |